

シンプルなデザイン

赤坂 佳紀 (21111003ya@tama.ac.jp)

加藤 あさの (21111086ak@tama.ac.jp)

日々の暮らしが複雑さを増すにつれて、ますます多くの人々が生活の中にシンプルさを取り入れようとしている。しかし、今日の職場においてシンプルさを言い出すことは、簡単になるどころか、かえって難しくなっているように思える。

近年、シンプルであるということはどういうことかについて、根本的な誤解が存在している。多くの人々はシンプルさを、短絡さや極端な単純さと混同している。あるいは、人を惑わせたり、欺いたりするほどレベルを低下させたものだと思い込んでいる。だがしかし、私の思うシンプルの定義とは、「物事の確信を突く明快さ」である。

シンプルには必要な2つの要素がある。それは、「簡素・渋み」である。

「簡素」とは、最小の手段で最大のインパクトを与えることである。簡素の概念においては、美しさや見た目の優雅さは、何かを削除したり、省略したりすることによって実現される。

「渋み」とは、優雅な単純さ、明快な簡潔性、控えめな気品、控えめな配色を組み合わせることである。

ここからは具体例を示して以上の2点を説明していく。

最初に1つめ「簡素」。「簡素」とは例えて言うならば「槌子の原理」のようなものである。イメージしてみると理解が容易である。「槌子の原理」は小さな力でそれより大きなものを動かすことができる。つまり、**少しの工夫で最大の効果を発揮すること**である。

2つめの「渋み」はあなたがお弁当を食べていると仮定しよう。そこで100%お腹が満腹になるまで食べるより、腹八分目までに抑えるほうが、そのあとの満腹感が最大化されるだろう。それはお腹が満たされてきたと思うピークのタイミングで、箸をおくことによりその感覚が**満足感を促進する**からである。

以上2つの要素「簡素」「渋み」は物事を相手に説明する時あるいは上手く簡潔に表現するとき非常に効果的だ。